

“商いの次世代化”への変革を目指し基幹システムを刷新 紙帳票と電子帳票の2つの基盤を統合し新たな業務要件に対応

伊藤忠商事株式会社

大手総合商社の伊藤忠商事株式会社（以下、伊藤忠商事）は、前倒しで達成した中期経営計画Brand-new Deal 2020で掲げる“商いの次世代化”への変革を支える基幹システムの刷新プロジェクトを推進している。これまで別々の基盤に分かれていた紙帳票と電子帳票をウイングアークのinvoiceAgent 文書管理とRDE、そしてそれらをシームレスに統合するSPAISを導入することで、長期間の運用に耐えられるシンプルで拡張性を持った基盤を実現。ペーパーレス化と業務効率化による働き方改革を目指している。

伊藤忠商事株式会社
ITOCHU Corporation



Summary

概要



背景・課題

- 紙帳票の印刷を担うシステムと電子帳票システムが共に老朽化
- 紙帳票と電子帳票の基盤が別々に運用されており業務効率化を阻害



導入のポイント

- 紙帳票をRDE、電子帳票をinvoiceAgent 文書管理で刷新
- RDE/invoiceAgent 文書管理をシームレスに統合するSPAISを利用することでアドオン開発を最小限に抑えつつ紙帳票と電子帳票を統合



効果

- SPAIS上での電子帳票を活用した紙削減（請求書控え・残高確認帳票控え・CSV出力）
- 明細情報の出力を電子化したことで残高確認業務を大幅に効率化
- センターにおける集中印刷を廃止し、ユーザー自身が印刷を行うオンデマンド印刷へ転換

あらゆる帳票の仕分けから保管、検索、他システムとの連携も可能な文書管理ソリューション。電子帳簿保存法に対応した安心の電子文書管理を実現し、コスト削減、ガバナンス強化、ペーパーレス化を推進。



invoiceAgent

CASE STUDY

現有資産を有効活用しながら、 長期利用に対応できる 基幹システムを目指す

大手総合商社の伊藤忠商事株式会社（以下、伊藤忠商事）は「商いの次世代化」への変革を支える基幹システムの刷新プロジェクトを推進している。その一環として2019年から取り組んでいるのが帳票基盤の再構築だ。そこで導入したのが「invoiceAgent 文書管理」と「RDE」、さらにこの2つの製品を統合管理する「SPAIS」だ。

旧来の帳票基盤では、紙帳票システムと電子帳票システムが老朽化し、新たに発生する業務要件への対応ができないという課題があった。新帳票基盤では、上位システムから送られてくる請求書データをもとに、紙の請求書と共にその控えもPDFで出力される。そのため、紙の請求書をわざわざスキャンしてお客様に事前送付す

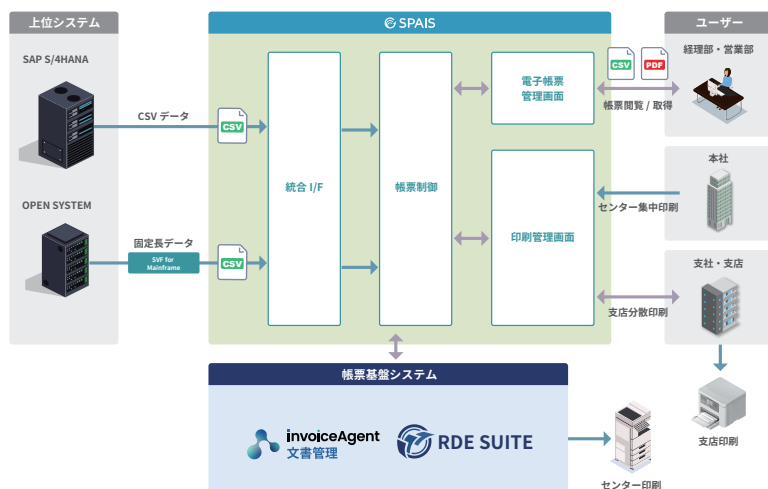
るという非効率な手間を省けるようになった。さらに、用紙管理に費やしてきた工数も大きく削減し、効率的かつ柔軟な印刷運用が可能となった。

そして、伊藤忠商事が目指す「センター印刷を廃止し、各部門でユーザー自身が欲しいタイミングで印刷行うオンデマンド印刷への転換」の要にもなっている。現在、請求書や残高確認帳票、基幹システムや部門システムと連携した帳票など、主に外部送付を目的とした帳票を年間約150万枚印刷しており、これらを全てオンデマンド印刷に移行するとすれば通常で

は大きな混乱が予想される。そこで、SPAISのPDF機能／レビュー機能を活用した一層の紙削減や、オンデマンド印刷に適したUIの実装で実現していく。

invoiceAgent 文書管理とRDE、それらをシームレスに統合するSPAISを導入し新たな業務要件が出てきた場合でも対応できるよう将来の布石を打てたことは、非常に大きな意義がある。今後、伊藤忠商事はシステムと業務の両面から新帳票基盤の構築プロジェクトを推進していく意向を示している。

紙帳票と電子帳票の2つの基盤を統合 すべての帳票システムをパッケージで完結



※2022年6月より「SPA」および「SPA Cloud」は「invoiceAgent 文書管理」「invoiceAgent AI OCR」に名称を変更しました。



伊藤忠商事株式会社

創業 : 1858 年
本社所在地 : 東京都港区
URL : <https://www.itochu.co.jp/>

繊維、機械、金属、エネルギー、化学品、食料、住生活、情報、金融の各分野において国内、輸出入および三国間取引を行うほか、国内外における事業投資など幅広いビジネスを展開

サイト内でより詳しく
ご紹介しております。

<https://www.wingarc.com/product/usecase/210.html>

